

<http://www.metro.tokyo.jp/tosei/hodohappyo/press/2018/01/17/13.html>

## 東京都で回収された死亡野鳥における鳥インフルエンザ確定検査の結果について

東京都環境局自然環境部鳥獣保護管理担当電話 03-5388-3505

平成30年1月5日に東京都大田区において回収された野鳥の確定検査を実施した結果、「高病原性鳥インフルエンザウイルス」であることが確認されました。

### 1 これまでの経緯

- 1月5日にオオタカ1羽の死亡個体を回収 東京都が簡易検査を実施したところ陰性と判明
- 1月10日に国立環境研究所が遺伝子検査を実施し、A型インフルエンザウイルス遺伝子陽性と判明
- 同日、環境省が、発生地周辺10キロメートル圏内を野鳥監視重点区域に指定
- 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究部門において確定検査を実施

### 2 検査結果

本日、H5N6 亜型陽性・高病原性であることが判明

### 3 今後の対応

- 環境省が指定した野鳥監視重点区域において、野鳥の監視強化を継続
- 1月19日に、野鳥監視重点区域における鳥類の生息状況調査、死亡野鳥調査等を環境省と実施

### 4 都民のみなさまに対する注意喚起

鳥インフルエンザウイルスは、感染した鳥との濃密な接触等の特殊な場合を除いて、通常では人に感染しないと考えられています。仮に、野鳥のふん等排泄物等に触れた場合であっても、手洗いとうがいをしていただければ、過度に心配する必要はありませんので、冷静な行動をお願いいたします。

※別紙 [高病原性鳥インフルエンザウイルス確定検査陽性結果に関する知事コメント](#)

※参考 関連情報 [環境省のホームページ（外部サイトへリンク）](#)

（高病原性鳥インフルエンザに関する情報、環境省自然環境局野生生物課）

[http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou18/corynebacterium\\_02.html](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou18/corynebacterium_02.html)

### コリネバクテリウム・ウルセランス人への感染

ジフテリア菌 (*Corynebacterium diphtheriae*) と同様にコリネバクテリウム属に分類されるコリネバクテリウム・ウルセランス (*Corynebacterium ulcerans*、以下、ウルセランス菌) という細菌によって引き起こされ、ジフテリアによく似た症状を示す感染症です。当該感染症は、人、犬、猫、牛のほか、様々な動物において感染事例が確認されており、咽喉頭、肺、皮膚、乳腺などに、様々な症状を呈する動物由来感染症です。

海外においては、乳房炎や関節炎に罹患した牛の生乳からの感染が主に確認されていました。最近では、ウルセランス菌に感染した犬や猫からの感染が国内外で広く確認されるようになってきました。

なお、人から人への感染事例は、国内では現在まで報告がなく、国外においても、非常にまれです。

2001年から2017年11月末までに国立感染症研究所で発生を確認しているものは、25例です。公表されているものは以下のとおりです。（国立感染症研究所調べ）

No.	発症年月	患者	臨床経過等	その他
1	2001年2月	50歳代、女性、 千葉県	呼吸困難、嘔声、上咽 頭と喉頭前庭に白色 偽膜形成	飼育している猫20匹飼 のうち1匹で皮膚炎
2	2002年10月	54歳、男性、 千葉県	同上	1例目の患者と同地区に 住居

No.	発症年月	患者	臨床経過等	その他
3	2005年9月	50歳代、男性、 岡山県	左耳下腺部腫脹、軽度の咳等	飼育していた犬が皮膚炎（犬死亡後に患者が発症）
4	2005年10月	50歳代、男性、 大分県	肺に多発性空洞病変、咳、痰、発熱等	猫を12匹飼育
5	2006年7月	50歳代、女性、 神奈川県	呼吸困難、嘔声等。上咽頭と喉頭前庭に白色偽膜形成。ジフテリア抗毒素使用により加療	その後患者は重症肺炎の増悪により死亡
6	2009年1月	50歳代、女性、 東京都	咽頭痛、嘔声等、上咽頭と喉頭前庭に白色偽膜形成	自宅で餌やりをしている猫5匹中2匹から菌分離。
7	2010年7月	50歳代、男性、 神奈川県	腋下膿瘍（穿刺液より菌分離）	猫10匹飼育。屋外でも猫に餌やりを行う
8	2010年10月	50歳代、女性、 茨城県	咽頭痛、嘔声等、上咽頭と喉頭前庭に白色偽膜形成	猫1匹飼育
9	2011年4月	50歳代、女性、 滋賀県	同上	猫14匹、犬7匹、ヤギ2匹飼育
10	2011年12月	30歳代、女性、 山形県	右肘膿瘍（穿刺液より菌分離）	猫6匹飼育
11	2012年1月	30歳代、男性、 香川県	腋下リンパ節膿瘍（穿刺液より菌分離）	親戚宅で犬3匹飼育
12	2012年11月	70歳代、女性、 埼玉県	呼吸困難、嘔声等、上咽頭と喉頭前庭に白色偽膜形成	飼育している猫4匹中1匹から菌分離
13	2013年4月	20歳代、女性、 埼玉県	呼吸困難、嘔声等、喉頭前庭に白色偽膜形成	猫18匹飼育
14	2014年4月	歳、女兒、 徳島県	頸部リンパ節膿瘍（穿刺液より菌分離）	猫1匹飼育（発病時皮膚病）
15	2015年9月	60歳代、女性、	発熱、鼻汁等、気管支	猫3匹飼育（うち1匹に

No.	発症年月	患者	臨床経過等	その他
		東京都	に黄白色偽膜形成	皮膚疾患あり)。屋外でも猫に餌やりを行う
16	2016年2月	17歳、女性、北海道	皮膚病変	犬飼育
17	2016年3月	63歳、女性、栃木県	咽頭痛、呼吸困難より人工呼吸処置要。咽頭から正門にかけて白苔あり	猫7匹飼育
18	2016年3月	岡山県	右頸部化膿性リンパ節炎	犬飼育（患者発症2ヶ月後に死亡）
19	2016年5月（新）	60歳代、女性、福岡県	呼吸困難。救急搬送されて3日目に死亡。喀痰と血液から菌検出。	屋外で猫3匹に餌やり

<https://www.hokkaido-np.co.jp/article/158789/>

北海道新聞（どうしん電子版）2018年1月25日 木曜日

北海道拓殖バス（十勝管内音更町）の男性運転手2人が1月上旬、相次いでレジオネラ菌に感染し、帯広市内の医療機関に入院していることが23日、分かった。2人は現在も治療中で同社や帯広保健所は感染源などを調査している。同社によると、感染した2人はいずれも50代。ともに肺炎症状を示し医療機関でレジオネラ菌が検出された。保健所の調査では、バスの洗車に使っていた同社のアーチ型自動洗車機からレジオネラ菌が検出されたという。